

説教:「聖霊が語りだす」

聖書:ルカによる福音書12章10～12節

○はじめに

おはようございます。今日は花の日・こどもの日として教会学校のお友達から、お父さんお母さん、教会のお兄さんやお姉さん、おじいちゃん、おばあちゃんみんなで集まって、神様に礼拝を捧げています。神様は目には見えませんが、この礼拝の中にもちゃんといてくださって、私たち一人一人を愛して下さっています。先週教会では、教会の誕生日をお祝いしました。え？教会にも誕生日ってあるの？と不思議に思うかもしれません。実はあるんです。この高知教会も137年前に生まれた教会です。みんなのお父さんのさらにお父さんの、つまりおじいちゃんが産まれるよりも前に、この高知教会はこの場所にあったのです。

○教会の誕生日

一番最初に教会が出来た時、それは、イエス様のお弟子さんたちに聖霊が与えられた時でした。イエス様は今天におられます。私たちが生きているこの地上にはいないんです。この地上に残されたお弟子さんたちが寂しくないように、天から与えてくれたのが聖霊だったのです。聖霊はお弟子さんたちに、不思議な力を与えてくれました。それは、イエス様が私たちの救い主ですよ。って世界中の人に言うことができるようになりました。

お弟子さんたちの伝道が始まった、イエス様を信じる人たちが集まる教会が誕生したのです。この聖霊は教会に集まっている私達にも与えられています。イエス様が私たちに与えてくださった特別な力の源が一人一人にプレゼントされているって聞くと、なんだか力が湧いてくるように思えます。聖霊は目には見えませんが、でも、松浦先生は、聖霊って本当にいるんだなって思った経験が子どもの頃にありました。

○聖霊の働き

先生の両親は、教会で働く牧師でした。ですので、生まれる前から教会に通っていたと言えるかもしれません。子供のころから教会に行くのは当たり前、神様が本当にいると思っていました。小学1年生の時に先生は、肺炎っていう病気にかかってしまって、一カ月ぐらい入院をしたことがありました。一緒に小学校に入学したお友達はみんな健康なのに、何で僕だけ病院にいなくちやいけないうらなろうかな？って毎日神様に文句を言っていました。ある時お父さんが病院におみまえに来てくれました。そこで先生は、ふと、「お父さん、僕は死んだら天国にいけるよね？」って聞いたんです。当然神様を信じていたので、天国に行けるもんだと思っていました。でも、その時お父さんは、「子基、それは無理だな。まだイエス様の十字架を信じてないでしょ。」って言われたんです。先生は子どもながらに、もうショックで、ショックでとても落ち込みました。そのあと無事に病気が治って、普通に学校生活を送れるようになったのですが、どうして死んだら天国に行けないんだろう？イエス様の十字架って何だろう？ってずっと心に引っかかったままだったんです。そんな気持ちを抱えていた時に、秋の特別伝道集会在教会でありました。そこに本田浩慈先生というおじいちゃん先生が来てくださって、聖書のお話を分かりやすくしてくれたんですね。先生は、教会にある大きな聖書を右手に持ってこれは、あなたたちの罪なんです。重くて、冷たくて、私達では、どうすることもできないものなのです。この罪をこのイエス様の十字架がすべて背負ってくださいましたよ。と言って空いている左手にその聖書を移動させたんです。その時に、生まれて初めて、イエス様がこの自分の為に十字架にかかってくれたんだってわかったんですね。当時小学2年生、8歳ぐらいだったと思いますが、その時、確かにイエス様の事がわかって、イエス様の事を信じることができましたね。

イエス様を信じることができること、これこそ、見えない聖霊の働きなんですよ。聖霊の力は、どんなに小さい子供であろうが、耳が聞こえにくくなっているお年寄りの方であろうが、関係なく働くんですよ。誰かが、イエス様を信じるときそ

には、聖霊の働きがあるんです。そして、この礼拝の中にも聖霊がいて私たちの思いを、イエス様に向けてくださっているんです

○聖霊は語りだす

聖霊は私たちに、信仰の言葉、信仰を言い表す言葉を与えて下さいます。聖霊が与えてくれる信仰の言葉、信仰を言い表す言葉とはこの「アッバ、父よ」と呼べるように、神様への信頼の言葉です。聖霊は私たちと神様との間に、父と子としての信頼関係を築いて下さるのです。そうすると、今日の聖書の箇所が出てきた、聖霊を冒瀆する言葉というのは、この信頼関係を否定するような言葉、神様の父としての愛を否定し、神様との関係を否定するような言葉であると言えます。それはつまり、人々の前で「イエスなど知らない」と言うこと、自分がイエス様の仲間、弟子、信仰者であることを否定し、イエス様との関係を拒んでしまうような言葉を語ることです。そのようにイエス様との関係を否定してしまうなら、イエス様によって与えられた神様の愛への信頼、神様を父と呼ぶ恵みを失ってしまうことは当然です。「聖霊を冒瀆する者は赦されない」というのはそういうことです。それはいくら神様でもこれだけは赦すことのできない大きな罪がある、というのではなくて、神様が一人子イエス・キリストによって差し出しておられる救いの恵みを私たちが拒んでしまうなら、それにあずかることはできない、ということなのです。

○人の子の悪口を言う者は皆赦される

しかし私たちは、自分がまさにそういう、神様の父としての愛を疑い、それを否定してしまうような言葉、聖霊を冒瀆するような言葉を語ってしまっていることを感じます。人々の前で、「イエスなど知らない」と言ってしまうこと、そうはっきり言葉に出さなくても、そういう態度、振る舞いをしてしまうことがある、と感じます。そのような自分はもう赦されない、滅びるしかないのだろうか、とやはり思ってしまうのです。しかしそこで私たちに与えられているのが、「人の子の悪口を言う者は皆赦される」という御言葉です。人の子、イエス様の悪口を言っても赦される。しかしイエス様の悪口を言うというのは、イエス様が救い主であることを否定し、神様の父としての愛を拒むこと、つまりまさに聖霊を冒瀆することなのではないでしょうか。私たちは、消極的に、イエス様のことを知らないような態度を取ってしまうことがあるけれども、悪口を言うというのはもっと積極的に敵対することです。それでも赦されるということと、聖霊を冒瀆する者は赦されないということはどう結びつくのでしょうか。

○ペトロに起ったこと

このことは一人の人の具体的な姿に表れています。それはイエス様の第一の弟子だったペトロのことです。ペトロは、イエス様が逮捕され、大祭司による裁きを受けている時に、その中庭に入ってそっと成り行きを伺っていました。その時、周りの人から、「あなたもあのイエスの仲間だろう」と言われて、三度「そんな人は知らない」と言ったのです。まさに、人々の前でわたしを知らないと言う者、になってしまったのです。イエス様との関係を否定する言葉を語ってしまったのです。ということは、もうペトロはイエス様の救いにあずかることはできないというのが当然だと思います。ですがペトロは、イエス様の復活の後、再び弟子として、信仰者として歩み出すことができましたのです。そして、初代の教会の最大の指導者の一人となったのです。それは彼が、イエス様を知らないと言った罪を赦されたということです。彼はどのようにして赦され、新しくされたのでしょうか。それはひとえに、復活なさったイエス様が彼に出会い、語りかけ、招いて下さったからです。イエス様は「あなたが私のことを『知らない』と言ったその罪を、私は全て背負って十字架にかかって死んだ。そのことによってあなたの罪は赦されている。あなたは私との関係を否定してしまったけれども、私は十字架の死と復活によってそのことを乗り越えて、あなたとの関係をもう一度結び直したい」と言って彼に手を差し伸べて下さったのです。ペトロは、そのイエス様の手を自分からも握り返しました。そのことによって彼は罪を赦され、主イエスを信じ従う者として新しく生き始めることができたのです。私たちはこのペトロの姿から、「人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒

流す者は赦されない」というみ言葉の意味を知ることができます。私たちはペトロのように、イエス様を知らないと言ってしまふことがあります。神様の愛を疑い、イエス様との関係を否定するようなことを言ったり、そういう行動に出たりしてしまいます。しかしそのような罪人であり、滅びるしかない私たちのために、その私たちの罪を全て背負って、イエス様は十字架にかかって死んで下さり、私たちの罪を赦して下さっているのです。聖霊なる神が、今私たち一人一人に働いて、このイエス様による罪の赦しの恵みを示し、与えようとして下さっています。イエス様が、聖霊のお働きによって、私たちに、手を差し伸べて下さっているのです。私たちが、その救いのみ手を、自分からも手を伸ばして握り返すならば、私たちの全ての罪が赦されます。どんなに人の子の悪口を言っていたとしても、赦されるのです。聖霊を冒瀆するとは、このイエス様の差し伸べて下さっているみ手を振り払うことです。イエス様の十字架の死による赦しを拒み、そんな救いは必要ない、自分には関係ないと宣言することです。そうでないならば、イエス様の十字架による罪の赦しにすがっていくならば、私たちはイエス様の恵みによって与えられる赦しにあずかることができるのです。

○聖霊の力を受けて歩む

私たちはこの礼拝において、聖霊のお働きを受け、主イエス・キリストによる赦しの恵み、救いにあずかり、そこから、それぞれの生活へと、人々の前へと、遣わされていきます。そこで、人々の前で、どのような言葉を語るか、自分を主イエスの仲間、信仰者であるとはっきりと言い表す言葉を語ることができるか、が問われています。それが私たちの日々の課題になります。けれども心配することはないのです。「何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる」のです。信仰を告白する言葉は、聖霊が私たちに与えて下さるものです。その聖霊のお働きを信じて、心配しないで身を委ねることこそが、私たちに求められているのです。

○祈り

神様、今日は子供から大人まで皆で一緒に礼拝を捧げることができ、心から感謝します。この礼拝の場にも神様は共にいてくださって、聖霊のはたらきによって、神様を信じることができました。いつも共にいてくださる神様に支えられながら、生きて行くことができますように。子どもたちの日々の歩みの中に、学校の生活の中に、お家での生活の中に、教会の礼拝の中に、神様が共にいてくださいました、助けていてください。今日のこの礼拝に来ることができなかった、お友達、教会の方々の上に神様の恵みと導きが豊かにありますように。このお祈りをイエス様のお名前によっておささげします。